

2024
7.3 (水)12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

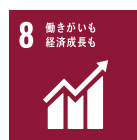
登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_YItI6_D3QyGNCoX_GKmgAg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

若者はなぜ林業に向かうのか？ ～森林と人との新たな関係性を求めて～

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

森林管理

林業

自伐型林業

減災

生物多様性

農山村定住

佐藤 宣子 教授

九州大学 農学研究院 環境農学部門

福岡県出身、九州大学農学研究科博士後期課程修了、農学博士(1989)、大分県きのご研究指導センター研究員、九州大学農学部助手、助教授を経て2007年より九州大学大学院農学研究院教授。専門は森林政策学、山村社会学。2011年、林業経済学会賞を受賞。現在、林業経済学会会長、NPO 法人九州森林ネットワーク理事長、国土審議会山村振興対策分科会特別委員、日本学術振興会専門研究員などを務める。また、「流域特性を踏まえた林野公共事業の多角的評価と緑の社会資本整備にむけた制度設計」(科研基盤Aプロジェクト)で学際研究を推進している。著書「地域の未来・自伐林業で定住化を図る」(2020年)全国林業改良普及協会、編著書「ほんとうのエコシステムってなに？」(2023年)農山漁村文化協会など。

陸上で最大のバイオマスである森林の管理と保全は気候変動対策にとって重要な分野です。日本は国土の7割が森林であり、持続的に森林資源の利用しながら、期待される森林の多面的な機能を維持・向上させるような林業が求められています。林業の担い手は減少し、高齢化が進んでいましたが、近年農山村に移住し、林業をはじめめる若者が注目されています。どのような若者が何を求めて森林や林業を目指しているのでしょうか？その中に森林と人との新しい関係性を展望しうる動きはあるのでしょうか？報告では、林業に参入した若者を対象としたフィールド調査を紹介しながら、人と森との新しい関係性や森林業の可能性について考えます。